スポーツ報知　2022年(令和4年) 4月15日(金曜日)　報知新聞　(第三種郵便物認可)

# ミズノ旗争奪第18回九州選抜大会予選

# 八幡南V

4年ぶりに本戦出場を決めた八幡南ナイン

▼▼　好守で貢献した八幡南の但馬

▲▲　5回無失点と好投した八幡南の田中

## チーム力強化　圧倒コールド

さあ再出発だ。八幡南が10―0の6回コールドで八幡東を下して優勝。春季全国大会では初戦で敗れたが、チーム力を強化して攻守に実力を発揮した。

決勝で先発の田中豪和は5回を2安打無失点に抑えた。6三振を奪い、「真っすぐとスライダーが良かった。捕手（長谷川舜）の構えたところへ思い切り投げられた」と振り返った。

野手も無失策で支えた。松尾佑人、小辻翔太の二遊間に加え、これまで控えに回ることもあった但馬陽希主将が三塁でスタメン入り。「守備でチームに貢献できるように」と意気込み、ライナー性の打球を好捕するなど動きが光った。

5回までは相手守備の乱れをつくなどして毎回1点ずつを挙げた。6回には花元龍士郎の二塁打をきっかけに打線がつながり、「コールドで決めたかった」と言う長谷川の2点適時三塁打などで5点を入れて決着をつけた。

先を見据えた選手起用で結果も残した。徳野晴美監督は「3、4番手の投手を充実させるため」として、大会を通してエースの管太樹を温存し、田中、加藤蒼登、塚本優空に2年生の柴田翔大、内木場陽也の5人を登板させた。タイブレーク（1死満塁）にもつれ込んだ初戦こそ5失点だったが、2回戦以降は3試合の計17回を1失点でしのいだ。

優勝を決め、但馬主将は「日本一をとれるように、夏に向けてもう一度チーム全員でやっていきたい」と決意を示した。チーム一丸となり、まずは九州選抜大会で頂点を目指す。

### 北九州支部予選準決勝、決勝
（9日・本城球場）

▼決勝

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 八幡南 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 | | 10 |
| 八幡東 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | （6回コールド） | 0 |

【南】田中、柴田―長谷川【東】赤瀬、佐藤▽三塁打＝葉山、長谷川（南）▽二塁打＝花元（南）

### ▼1回戦

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 八幡南 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 7 | 11 |
| 八幡 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 5 |

（延長8回タイブレーク）

【南】加藤、内木場、塚本―長谷川【八】林、鈴木、田中―溝上▽本塁打＝田中（南）▽二塁打＝黒岩（八）

### ▼2回戦

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 八幡南 | 1 | 0 | 0 | 3 | 1 | 6 | | 11 |
| 八幡西 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 |

【南】田中、柴田―長谷川【西】月川、木下、梶原、長野、佐藤庵―木下、月川、木下▽本塁打＝花元（南）▽三塁打＝長谷川、山本、田中、吉田、山中（南）

### ▼準決勝

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 八幡南 | 1 | 3 | 1 | 4 | 0 | | | | 9 |
| 小倉 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | （5回コールド） | | |

【南】加藤、内木場―長谷川【小】林、橋本聖―九木田▽三塁打＝花元（南）木下（小）▽二塁打＝田中（南）